



2021年(令和3年)3月号

中野区立江原小学校 学校便り

校長 根来 郁明 児童数512名

学校教育目標

自立し、共に生き、平和を求めず
『かしこく』『やさしく』『たくましく』

受け継がれていく思いや願い

校長 根来 郁明

1 感謝の気持ち

学校では、年度末に向け、「ありがとう」という言葉がたくさん使われます。6年生を送る会、ふれあい班活動…、卒業式と、感謝の言葉があふれています。

子どもたちは、学校生活を通して、いろいろな人にお世話になります。まず、先生方にお世話になります。そして、友達や上級生にお世話になります。地域の皆さんにもたくさんお世話になります。その他にもたくさんの方にお世話になっていると思いますが、一番お世話になっているのは、保護者の皆さんです。この先、いろいろな人に支えられ、お世話になりながら成長していきます。そんな時、機会があるごとに、支えられたこと、お世話になったことに対して「感謝の気持ち」をもって欲しいと思います。

感謝の気持ちは、心の中で思っているだけでは伝わりません。いくら心の中が感謝の気持ちで満ちあふれていたとしても、口に出さなければ相手には伝わりません。むしろ、伝わらないことがほとんどだと思います。感謝の気持ちは、感謝の言葉を表現することで、はじめて相手に届きます。日常の何気ない行動にも「感謝の気持ち」をもち、しっかりと自分の言葉で、自分の気持ちを表現する機会を増やして欲しいと思います。

2 江原小の校章

校章には、学校の創立や開校にかかわった地域や保護者、教職員の「どのような子どもに育てたいか」「どのような学校にしたいか」という思いや願いが込められています。

【校章の由来】

我が国の象徴である「富士」を頭にいただき、子どもを「玉」にたとえて、二羽の「鳥」が羽を広げて温かく抱えている様子は、地域・家庭と学校が協力して子どもを育む姿を表しています。

「玉磨かざれば器を成さず」～どんなにすばらしい玉(原石)でも磨かなければ立派な器(宝石)にはならない～、地域・保護者と学校が互いに協力し合うことで、子どもたちの能力、個性を十二分に発揮させ、次の世代を担う人物を育てて欲しいという願いが込められています。

30周年記念誌「30年のあゆみ」から引用

江原小の子どもたちには、「自立した人(自分の力で生きていける人)」になって欲しいと願っています。そして、10年後、20年後、さらにその先の人生に向け、「自分で考え、自分で判断し、自分の意思で行動する」、そんな経験がたくさんできる学校にしたいと考えています。

現実と向き合い、自らの課題や問題点を考え、自分の力で道を切り開いていくことは簡単なことではありません。時には壁に突き当たり、道に迷うことがあるはずです。そんな時こそ地域・保護者と学校の出番です。困った時に助けを求められる、頼れる存在(地域・家庭・学校)がいることで、子どもたちは、安心して、自分らしく、自分の力で自信をもって歩んでいくことができると信じています。

地域の皆様、保護者の皆様、多くの関係者の皆様に温かく見守られ、一年間が無事終了できますことに感謝申し上げます。令和3年度も、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。